

「佐賀大学医学部附属病院感染制御部での2年間の研修を終えて」

佐賀大学医学部附属病院感染制御部のHPをご覧の皆様。はじめまして。鹿児島生協病院総合内科・感染症の山口浩樹と申します。この度佐賀大学感染制御部での研修報告をさせていただく機会をいただきましたので、大変恐縮ですが述べさせていただきます。

私が所属する鹿児島生協病院では、自分が専攻する分野の最先端の病院で研修することができる専門研修制度があります。私は医師3年目頃から感染症に興味があり、日本全国の施設から臨床感染症が学べる施設を探していました。まだまだ臨床感染症を基礎から学ぶことができる施設は限られ、専門研修先について途方にくれていたとき2012年度の感染症学会総会で行われた「目指せ！感染症専門医」という私のような感染症専門医を目指す若手医師向けのセミナーで、佐賀大学感染制御部の青木洋介教授のご講演を拝聴しました。30分ほどのご講演でしたが、青木教授の感染症と医学教育に対する熱意に感動し「教えを乞うのはこの方しかいない」と押しかける形で佐賀の地を訪れ、医師4年目の2013年4月から縁もゆかりもなかった佐賀での専門研修を開始しました。

感染症がない診療科は存在しないと言えるほど「感染症」は多くの診療科で遭遇する疾患です。佐賀大学感染制御部では、全科からコンサルトを受け様々な経験を積むことができました。その内容は抗菌薬の選択や投与量の相談、発熱の原因精査などのありふれたものから、大学病院ならではの複雑な症例まで多岐にわたります。また、血液培養陽性症例は全例感染制御部が併診しており、血液培養陽性者への対応も数多く学ぶことができました。基本はベッドフリーで常時20人程度フォローを行いながら、HIV患者の主治医診療も行いました。診療面だけでなく、針刺し事故時の対応、インフルエンザやノロウイルスなど流行性疾患が院内で発生した際の感染制御、MRSAなど耐性菌の院内伝播防止、広域抗菌薬や抗MRSA薬の適正使用(カルバペネム使用症例は血液培養同様全例併診しています)など感染制御に関わる業務にも携わることができました。経験した症例数は2年間で約500例と一つ一つの症例を深く学びつつ、感染症専門医を得るための十分な症例を経験することができました。学会や学術活動も豊富で、全国学会で3回・地方会で2回の発表や日本語での症例報告1報、英語論文2報、依頼原稿3報執筆し貴重な経験をさせていただきました。

所属している病院や家族の都合等があり、わずか2年間の研修でしたが教授を初めとした医局員の先生方、看護師や検査技師など感染制御部スタッフの皆様にとっても暖かく接していただき、大変な時もありましたが楽しく充実した研修を送ることができました。佐賀で学んだことを早速鹿児島に持ち帰り、コンサルト業務や血液培養陽性者への診療支援など「青木ism」を浸透中です。まだまだ若輩者で勉強の日々ですが、感染症医としての基礎を築いていただいた佐賀大学感染制御部の皆様にはとても感謝しております。



鹿児島生協病院 内科部長 山口浩樹 先生